

自転車利用実態定点調査報告

平成28年 1月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成27年 12月17日
[午前]8:00~8:50

調査場所 ・ 都立〇〇高校(共学)
概要 ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間				車種		形式		危険走行			
	車道	歩道	自転車道	その他	普通	電動	普通	電動	危険走行	危険走行	危険走行	危険走行
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												

調査日時:	平成 27 年 12 月 17 ()
調査場所:	都立〇〇高校
調査時間:	8:00 ~ 8:50

<調査票>

【コメント】

◎走行空間においては、車道左側走行率は、41%であり、車道右側走行率は、4%・車道中央走行率は、6%・歩道走行率は、49%での結果であった。

◎危険運転行為は、カバン背負い(22件)・片手運転(8件)・ハンドルに荷物(7件)・並列運転(6件)・肩に荷物(3件)・過積載(2件)の順となっている。

【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

車道左側走行率が、4割を占めており、比較的ルール・マナーの遵守率が、高い。

なお、危険運転行為の中では、片手運転が、全体(48件)の約17%(8件)を占めていた。

事故を招きやすいため、行わないことが望ましい

また、カバン背負いの生徒の一部は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が望ましい。

なお、校門直前で左右や後方確認をしている生徒は、皆無であった。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数700人)の4割程度である。

校内には、駐輪場が複数整備(総収容台数400台)されていた。

収容台数に余裕があるのは、今後の自転車通学生の増加に対応してとのことである。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

今回、自転車通学用の校門は、正門の1箇所だけであった。

また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

因みに、同校では、教諭による自転車通学の指導は、特に行われていなかったが、交通安全啓発の一環として、自転車通学生登録時に自転車のルール・マナー等を習得させている。

なお、過去に全校生徒を対象に自転車安全教室(地元警察主催)を開催した経緯がある。



自転車駐輪場 A



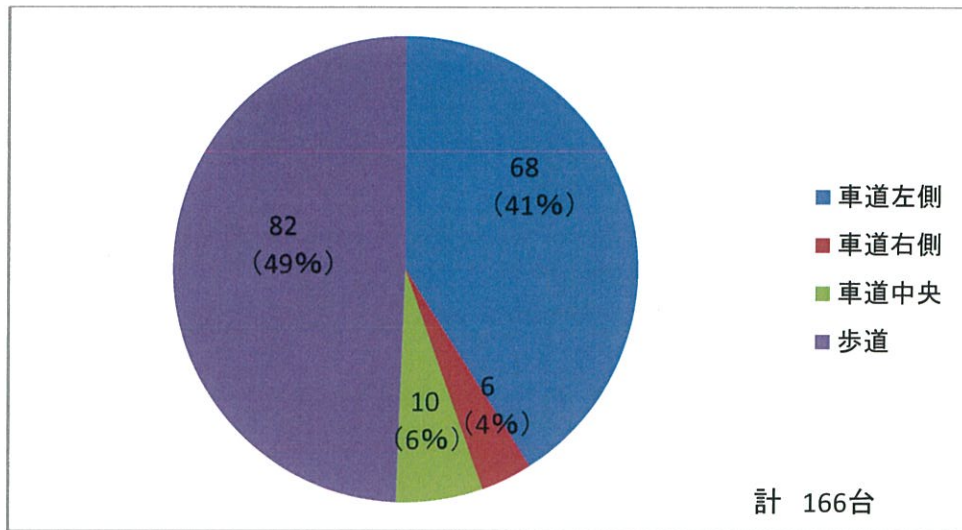
自転車駐輪場 B



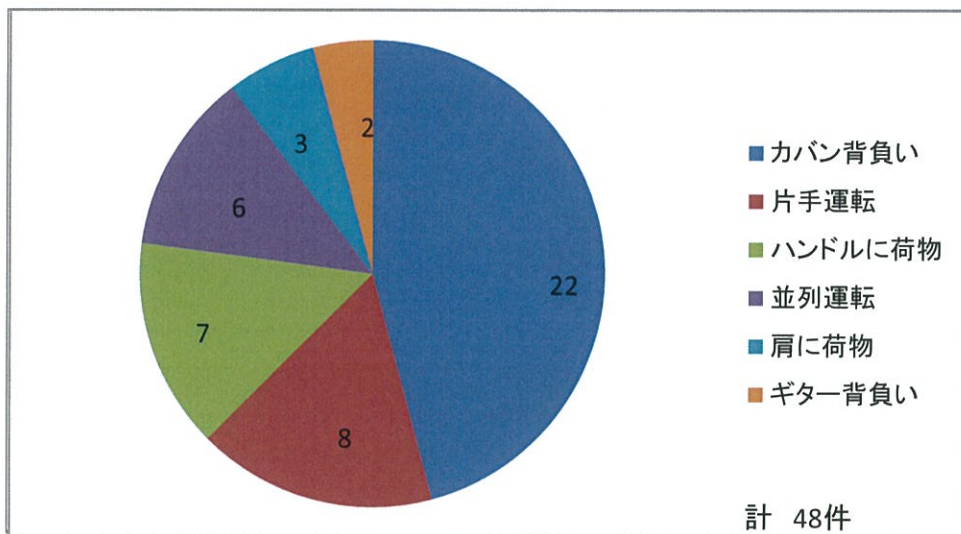
校門前道路(校門を背に右側)



同反対側(校門を背に左側)



走行空間



危険運転行為

